

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</li> <li>● 我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。</li> <li>● 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養う。</li> <li>● 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。</li> <li>● 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 漢字を正しく書けるようにテストで定着度を確認したり、ノートや提出物を漢字で書くよう指導したりし、正しく漢字を書いたり活用したりする習慣を身に付ける。</li> <li>● 教材文の表現や国語辞典を引いて調べた語句を生かして作文することにより、文章表現力を高める。</li> <li>● 古典文学や俳句を音読することで、古典の味わいを感じさせる。</li> <li>● 説明的な文章では、教材文から要旨を読み取り、段落を分けたり要約したりするとともに、筆者の考え方について自分の意見をもたせる。また、それらを自分の作文や発表原稿に生かせるようにする。</li> <li>● 文学的な文章では、登場人物の相互関係や心情について描写を基に捉えて読み、想像したことや表現の効果について自分の考えをもたせる。</li> <li>● 話す聞く活動をする際、相手や目的を意識して取り組ませる。感染症対策を行いながら、児童間で交流したり振り返ったりする時間を設け、自分の考えを深められるようにする。</li> <li>● 硬筆や毛筆で文字の形や点画の流れを意識して書かせる。</li> <li>● 選書や読書の時間を多く設けるとともに、学習に関連した本を紹介したり並行読書を行わせたりすることで、読書の幅を広げる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。</li> <li>● 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>● 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会的事象について、地理的環境の特色や産業に携わる人々の思いや工夫に着目して学習問題を設定する。</li> <li>● 学習問題を解決するために、児童が資料にじっくりと向き合い、適切に情報を読み取る時間を積極的に設ける。教科書資料だけでなく、年鑑や映像資料、インターネット資料など様々な資料を正しく活用できるようにする。</li> <li>● 統計資料に関しては、読み取り方を丁寧に指導し、変化の様子やその背景について考えさせる。</li> <li>● 産業について、児童の生活に身近な事項から導入し関心・意欲を高める。また、地図帳や白地図、インターネット上の地図を用いて、東京を始点にどこに位置するのかを確認させる。</li> <li>● 産業について、多くの人々の努力や工夫によって社会生活が成り立っていることに気付かせる。また、社会の一員としてこれからの社会生活の課題について知り、自分事としてできることを考える時間を設ける。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質などに着目して考察したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、すすんで生活や学習に活用しようとする。</li> <li>● 数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付ける。</li> <li>● 小数や分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを調べたりするなどの技能を身に付ける。</li> <li>● 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、分数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定義や公式を理解させるとともに、計算の仕方や単位の換算などを繰り返し演習することで基礎・基本の定着を図る。</li> <li>● 自力解決では、式だけでなく、数直線や図、グラフの活用、言葉での説明でも表現させる。集団検討では、多様な解法や説明の仕方をつなぐことで、共通する定義を導き出せるようにする。</li> <li>● 問題解決学習型の授業を展開し、自力解決、集団検討の時間を十分に確保し、表現力・思考力を高められるようにするとともに、互いに認め合えるようにする。</li> <li>● 視覚的教材や具体物の操作を取り入れることで、感覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解を図り、器具や機器を目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験を行い、それらの過程や結果を適切に記録する力を身に付ける。</li> <li>● 自然の事物・現象から問題を見だし、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決する力を養う。</li> <li>● 自然の事物・事象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決したり、学んだことを生活に生かしたりする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じて、基本的な実験器具や使い方を習得させ、結果を表やグラフに表したり数値化したりするなど、工夫してまとめる。</li> <li>● 観察記録は、対象物の特徴を捉えて記録するようにする。</li> <li>● 児童の疑問を大切にしながら仮説を立て、問題作りを行い、生活経験を基に予想する。</li> <li>● 実験結果を整理して共通点や差異点を見つけ、それらを基に考察して結論を導き出すといった問題解決の過程の中で、問題解決の力を育成していく。</li> <li>● 視覚的な資料を用意し、校内での観察活動をできる限り行い、身近な自然に目を向けるよう声掛けし、自然に対して関心をもって生活できるようにする。</li> <li>● 既習した自然の事物・現象が、生活の中でどのように生かされているのか、事例を示して学習への興味関心を高める。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 曲想と音楽の構造などとの関わりを理解し、表したい音楽表現をするために、必要な技能を身に付け、味わって聴いたりする。</li> <li>● 音楽を形づくっている要素を聴き取り、どのように表現するか、思いや意図をもって取り組んだり、工夫しながら表現したりしようとして、味わって聴いたりする。</li> <li>● 音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童が表現したり聴いたりする活動を通して「できる楽しさと喜び」を体感できるよう、児童の実態を把握して指導計画を立て、ねらいを明確にする。また、1時間の中で音楽に触れている時間が長くなるよう、授業の流れや発問を工夫する。</li> <li>● 児童が知覚・感受したことを基に自分の思いや意図をもち、音楽表現の工夫に結び付けられるよう手だてを工夫する。</li> <li>● 学習の見通しを立てたり、学習の振り返りをしたりする場面を大切に、児童ができるようになったことを実感できるようにする。</li> <li>● 学習形態を工夫し、友達と関わりながら主体的に音楽活動できるようにする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思いついたり、形や色、用途や構成などを考えたりする。</li> <li>● 感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて、材料や用具を使い様々な表し方を工夫する。</li> <li>● 親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴を捉えたり、よさや美しさを感じ取ったりする。</li> <li>● 自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の工夫を取り上げて紹介し、造形的な観点のよさに気付かせるとともに作品づくりへの意欲を高める。</li> <li>● 木工などの難しい材料を使った工作などを取り入れ、児童の思いや考えを生かして計画的につくりができるようにする。</li> <li>● 互いの作品鑑賞を通して一人一人の児童が自分の作品が好きになり、自信をもてるようにする。</li> <li>● 友達との関わりをもちながら、安全に安心して活動できる造形環境をつくる。</li> <li>● 活動中に賞賛や励ましの言葉を掛けたり、児童作品の提示を行ったりして、児童が自信をもって活動できるようにする。</li> </ul>

家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の成長や衣食住、家族の生活などについて関心を持ち、その大切さに気付き、家族の一員として家庭生活をよりよくすることにすすんで取り組み実践しようとする。</li> <li>●衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりする。</li> <li>●生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> <li>●家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童の生活に身近な事項から導入し、関心・意欲を高める。</li> <li>●家族の努力や工夫によって家庭生活が成り立っていることに気付かせる。また、家族の一員として自分の役割を考えるようにする。</li> <li>●実演や手順の動画を適時見せることで、作業の方法や手順の理解を助ける。</li> <li>●裁縫や調理など、活動後の振り返りを全体で共有し、次の活動に生かせるようにする。</li> <li>●基礎技能の定着を図るため、グループでの活動や個別指導など、適宜行う。</li> <li>●調理実習では洗う、茹でる、切るなどの基本的な技能と調理法を学ぶ。また用具の使い方や調理の仕方、後片付けの仕方が身に付くようにする。</li> <li>●裁縫では、使用目的を明確にすることで作成意欲を持続させ、完成の喜びを味わえるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける。</li> <li>●運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> <li>●運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</li> <li>●改築工事で校庭が使用不可の現状や、感染症による社会的距離を踏まえ、限られた場所で可能な運動の仕方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●系統性のある指導計画の下、運動の特性や運動の楽しさを十分に味わえるよう単元を構成する。</li> <li>●児童の「やってみよう」という運動欲求から出発し、児童の思考に寄り添い、必要に応じて技能指導を行う。決して技能重視ではなく、児童の「もっとやりたい」を引き出し、結果として技能の習得につなげる。</li> <li>●学習カードやワークシートを活用して、児童の思考判断を言語化させ、課題解決のプロセスを可視化できるようにする。また、そこから児童同士での考えの共有や意見交換を行い、自分たちの考えを深められるようにする。</li> <li>●保健領域については、理解したことを実生活と結び付け、自分事として捉えられるようにする。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、語彙の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。</li> <li>●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について話をするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</li> <li>●外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チャンツや歌などを授業冒頭に取り入れ、意欲的に聞いて発音させたり、語句や表現の音を理解させたりする。</li> <li>●単元で初めて触れる語句や表現について、「WORD LINK」を活用し、音を聞いて語彙の意味を理解できるようにする。</li> <li>●ワークシートを用いて、設問に正確に答えたり、聞き取れた語句からおおよその内容を理解させたりする。</li> <li>●登場人物の会話を聞き、すすんで教科書やワークシートに聞き取れた内容を書き出すことができるようにする。</li> <li>●基本的な表現を参考に一部分を置き換えることによって、自分のことや身近で簡単な事柄について伝えることができるようにする。</li> <li>●黒板に単元ごとのポイントとなる語句や表現を掲示し、学習している語句や表現を正しく理解・活用できるようにする。</li> <li>●ピクチャーカードや電子黒板等の視覚的教材を効果的に取り入れて、新出語彙を正しく理解できるようにする。</li> <li>●学習した語句や表現を理解した上で、自分の考えや気持ちなどを整理しながら伝え合わせる活動を取り入れる。</li> <li>●学期末に、各単元で学習した語句や表現を復習する時間を設ける。</li> <li>●定期的に既習した表現や語彙を用いてスピーチの内容を組み立てて発表を行い、プレゼンテーションの力を養う。</li> <li>●定期的に既習した表現や語彙を用いて、ペアやグループでの話し合い活動を設定し、相手意識をもってコミュニケーションする力を磨く。</li> <li>●振り返りカードにコメントを添えたり、学習活動中に賞賛や励ましの言葉を掛けたりして、児童が自信をもって活動できるようにする。</li> </ul>